

「あったかすぎる」芦別の良さ発見



芦別の魅力について発表する札幌圏の大学生たち

【芦別】芦別の魅力について札幌圏の大学生と市民が一緒に考えるイベント「好き×芦別『好きの降る里プロジェクト』」が12日から3日間、市内で開催された。学生たちが市民と交流しながら、芦別の良さや好きなところを掘り起こし、コンペで競った。

札幌圏の大学生「コンペ」で発表

主催は北海学園大経営学部佐藤大輔教授のゼミでマーケティング理論を学ぶ2、3年生6人と芦別青年会議所(じっ)で昨年実施した芦別創生プロジェクトの第2弾だ。主催は北海学園大経営学部佐藤大輔教授のゼミでマーケティング理論を学ぶ2、3年生6人と芦別青年会議所(じっ)で昨年実施した芦別創生プロジェクトの第2弾だ。

同大と北大、北海道大、北翔大の1、4年生計24人が参加。12日は地元の中高校生、13日には小学生とその保護者や企業関係者と交流し、「芦別の好き」をテーマ

市民と交流しコピー考案 北海学園大生が最優秀賞

に思い出やエピソードなどを書き出した。

14日に市総合福祉センターで開催された発表会には、荻原真市長や企業関係者、市職員ら約30人が参加。学生グループが芦別の魅力として「人と人とのつながりが強く、温かさを感じる」「お祭りやイベントが多い」などを掲げた。

来場者の投票による審査の結果、北海学園大(村谷直輝さん、川上兼悠さん、見玉笙さん)のグループによるキャッチコピー「あったかすぎやい。そして、おかえりなさい芦別。」が最優秀賞に選ばれ、賞金5万円などを受け取った。3人は、地域で子ども向けの催しを行っている市職員有志のグループ「ONE TEAM(ワンチーム)」や、芦別出身でリターンして活躍している企業関係者らの活動を例に挙げ、地域振興に奮闘している人が多いことを「良さ」とし、「あったかすぎるよ芦別」と強調した。

最後に荻原市長が全体講評し「『ひと』『もの』『こと』について芦別ならではの魅力を発見していただいた。しっかり受け止め、今後のまちづくりに生かしていきたい」と述べた。(宋巨透)